



## 第 22 回交流会 「何はなくとも森歩き」

2020年7月12日（日）

参加者 15名

### はじける笑顔！飛び出す生き物！何でもみつけ！交流会！

昨日来の雨模様とは一変？久しぶりの太陽の姿を！駅前には古くからの会員さん、初めての参加者、何度かの会友さんたちが集まっていた。スタッフの M さんのお手製！小網代の森を守る会から引き継いだカニグッズの中の手ぬぐいを使ったカニのマスクが配られます。コロナ禍の折り、グッドタイミングのプレゼント。

バスと車で移動し、10時、昔の水道広場で開会へ。今回は N さんの差し入れの三浦産、季節の野菜が配られます。そして、マジックと A4 半切の紙 3 枚が配布されます。「森を歩きながら気になったことを 5 または、7 文字にして紙に書いていって下さい。後で、ランダムに 5・7・5 と組み合わせて小網代戯句を作ります。」皆さん、これでは頭にイメージが湧かないようなので、スタッフがいろいろ補足してくれる。

階段を下り始めると参加者の方から、昔はよくこの森に入ったとの言葉が聞こえる。何が好きなのか聞いてみると昆虫、とりわけ蝶という話。これは嬉しい。いつも、貴女何蝶？と自信なく見ていた私たちに力強い元蝶青年が参加してくれている。「いやあ、みんな忘れていたよ。」と遠慮がちに私たちの期待には添えないようなことをおっしゃる。所がなんとなんと歩き始めて階段から森の中を見回すと、すぐにもひらひら飛び交う蝶が。「ジャコウアゲハ」の一声でみんながその方を探す。見つけたら嬉しい！そんな素敵な流れが最後まで続きました。ちなみに今日見つけた蝶類は 16 種。森中の蝶がこの僅かな晴天を祝い舞っているようでした。

クサギの葉に沢山のつぶつぶがついていた。H さんにスマホで確かめて貰うと「クサギハコブフシ」。この虫こぶの中に植物に寄生する無数の 0.2mm のウジ虫のような幼虫が育っていると後で調べた。成虫はダニの仲間では足は 2 対、単性生殖で受精しないメスはオスしか産まない。受精したメスは両方が産まれる。成虫で冬芽の鱗片などで越冬すると。





下見で見ていたジャゴケの崖の側にタシロランを探したり、遠くまで香るヤマユリの開花したばかりのようなみずみずしい花の姿を山裾の茂みに見つかったり、その間にも聞こえる鳥の声に耳を傾けたり五感が忙しい。丁度、現れたアカテガニのメスを捕まえて透明袋に入れて回覧。戻ってきて放してやるのも忙しい。ここには昨年あんまり目立たなかったヒメヒオウギスイセンの花が多く咲いていて、外来種の旺盛な繁殖力に驚く。我が家の庭にさえ今年は2株、花が咲き出しているのだ。招かれなくても咲いているのかも知れない。



下流の大湿原に向かうとコガマが花盛り。また、行くと今度はヒメガマの群落。また、歩くと大きいガマの穂が。ここではガマの3種を目の前にすることが出来る。ニカノメイガの幼虫が関係するアシの葉の草梯子を見たり、カバキコマチグモの卵が三角に巻かれたアシの葉に母グモと一緒に入っているものを久しぶりに見たりして歩いた。オオシオカラらしきトンボもじっとボード上に止まっている。

やなぎテラスで大休止。I.Nさんの差し入れのお菓子を配る。写真も撮る。

カメラマンはH.Nさん。

昆虫好きのTさんにここに沢山見られるヒモミノガを教えたかったが、見つからない。

15分ほどお休みして12時30分、河口の湿原に向かう。まだ、ハンゲショウの花が咲いていて嬉しい。スタッフ研修で観察した、水辺公園のハンゲショウの花が、ふわふわと白い雲のように咲いていた様子とはちよつと違う。ここでもハンゲショウの花の中に身を置いてみたいものだ。

13時、えのきテラスに着いたのに後続がない。暫く待っていると、粘菌ガールのMさんが嬉しそうにスマホの写真を見せてくれた。途中のエノキ?にシロウツボホコリとアオモジホコリの2種見つけたそうだ。

昼食の後は、戯句づくり。上の句、中の句、下の句に分けて入れて貰った短冊をランダムに貼り合わせて読み上げる。うまく出来たかな?参加者の反応でブーとグーに分けて行く。グーの中から2つずつ掲げてベストを選ぶ。今回は爆笑とまで行かなかったが、そこそこ楽しい時が過ごせた。

ベスト3の紹介 ① ガビチョウの こあじろの森 川の音  
② 梅雨の間に 連結トンボが しらね草  
③ ナミアゲハ 貴重な出会い ウキウキと

トイレの方を待ってお休みしている時、えのきテラスへ向かって来る日傘を差して風に揺れた夢二の美人画のような様子の方が見えてきた。「Nさん!」声を掛けると果たして小網代詩人の登場です。みんなが大歓迎の声を挙げる。詩人はここでお昼。

14時10分、ここでSさんとお別れ。大多数の方は北尾根へ向かう。残ったメンバーは、干潟でじっくり、ヤマトオサガニ、チゴガニのダンスを久しぶりに見る。それから北尾根へ。セリを食べ尽くして枝だけになっている所にぶら下がるようにキアゲハの幼虫を見つけて、お写真タイム。階段の途中でオオバノトンボソウを見つける。道を上がった所、マテバシイの広場で少し、息継ぎ。この間にマテバシイの幹にヒモミノガをH.Nさんが見つけてみんなで見ると。藁から小さな黒い顔を出している様子はホタルトビケラそっくり!ミノガの生活は、面白いので調べてみて下さい。この北尾根ではクロマドボタル、ウラナミアカシジミを見つけたことがあるなど紹介したりして歩く。



ツバキの実がたくさん、砕かれて落ちている。誰の仕業か推論が飛び交う。北尾根を抜け、畑のT字路で、引橋に行く道と三戸を通して三崎口へ歩く道で二手に分かれる。ここで、本日の交流会は終了。次回もどうぞ、ご参加下さい!

引橋への道でシロテンハナムグリやクロカナブンなどを見つけ、崖の草の上に青と黒と白のカミキリを見つけた。ラミーカミキリ！と叫んだのだが、触角が短いとの会員さんの声。

翌日、一緒にみた会員の E さんから「私はラミーにしては小さい。長い触角がないから違うと言いましたが、撮った写真を拡大したら、触角は短かったけどラミーでした。」とメールを頂いた。これも小網代の森の住人に違いない。

15日になって参加したスタッフの Y さんから作詠の葉書が届いた。



雨上がり 緑の森に 気を受くる 鳥の囀り せせらぎの音  
 ヤマユリの 梅雨にもめげず 凜として 森の繁みに 貴婦人のごと  
 緑谷 カラスアゲハの ひらひらと 黒にブルーのツートンカラー  
 ペア蜻蛉 オオシオカラのホバリング 水面近くを くるくると舞う  
 メス蜻蛉 飛びつ水辺に つんつんと 卵落とすを 繰り返しおり  
 オス蜻蛉 ペアの優美な ダンス後は 放卵行為を ガードに飛来

述 女



見事に森の晴れ間の一日が詠まれていますね。



#### 蝶の 16 類

モンシロチョウ、スジグロチョウ、モンキアゲハチョウ、アオスジアゲハチョウ、ナガサキアゲハチョウ、キチョウ、ナミアゲハチョウ、カラスアゲハチョウ、ジャコウアゲハチョウ キタテハチョウ、ルリタテハチョウ、ゴマダラチョウ、ルリシジミチョウ、ベニシジミチョウ、ヤマトシジミチョウ、セセリチョウ sp.

#### 鳥の 11 種

ウグイス、ガビチョウ、コゲラ、メジロ、カラス、トビ、ホオジロ、シジュウカラ、スズメ、アオサギ、ツバメ その他ニイニイゼミの声、タイワンリスの声

(鳥の記録：加瀬アンナ、全体記録：三本保子)



記 宮本美織 写真 浪本晴美

●●● ●ご参加の皆さまから、今日の感想をいただきました ●●● ●

A.K: 今日はシラネソウという言葉を教えていただいて、これは便利だなと思いました。ありがとうございました。

S.S: 遅くなって本当に申し訳ありません。楽しく過ごしました。ありがとうございました。

E.F: いや、久しぶりに小網代に来て、とっても素晴らしいなと思いました。本来なら長野県だとか、群馬県に行っているつもりだけど、今、訳ありで外に出られないので、今日は、小網代で我慢しております。とっても小網代も素晴らしい。

M.M: 皆さまのお陰で、晴天に恵まれました。いつ来ても楽しい小網代でよかったです。

N.Y: 雨に洗われた緑の濃い森の中で、わいわい言いながら、とても楽しかったです。

M.I: 今日は、晴れてよかったです。

K.E: 晴れもよかったけれど、いっぱい差入れいただき、ありがとうございました。

K.T: 今日は、来る気は全くなかったんですが、いきなり来ました。これだけの距離を3時間位かけて見たっていうのは初めてなので、見えないものが散々見えて面白かったです。ありがとうございました。

Y.M: 天気も晴れて、3時間かけて、本当に皆さんとわいわいで楽しかったです。

A.M: 昨日の夜、朗読のサークルで作った、『二町谷(神奈川県三浦市)の方言』という冊子を、Tさんに買っていただいて、奥様と友だちなので、そうしたらお礼のメールが来て、それに、「明日小網代なんだよ、おいでよ」と言ったら、「あっごめん、明日から温泉にゆくの」とか言われて、ああ無理なんだなと思ったら、朝、奥さんに取り残されたご主人が一人で来てくれました。それで、いっぱい、いろいろな蝶々のことを、こんなにご存知だとは、全然知らなかったんですけど、助かりました。これからもどんどん参加してほしいと思います。よろしくお願いします。

M.H: お天気がよくて、ここまでよくなくてもいいと思うんですけど、暑くて、楽しくて、もうすごいホットな一日です。Sさんにも会えだし、Yさんにも会えだし、Fさんにも久しぶりですよ。すごく嬉しかったです。トビがお弁当を狙ってくれないのが、ちょっと残念でした。

K.Y: もう、何年ぶりかで参加させていただいて、今日は、ゆっくり植物や、トンボやチョウ類や見せていただいて、ありがとうございました。俳句の面白い趣向だなと思って、主催していただいた方々に準備していただいて、ご苦労様でした。ありがとうございました。

H.N: 今日は変形菌に会えて嬉しかったです。これから北尾根を歩くのが楽しみです。ありがとうございました。

## 小網代の森 通行禁止が解除されました



昨年秋の台風から今回のコロナ禍まで、森は実に長いこと閉鎖されていた。

- 2019/ 9/ 9 台風 15 号による被害のため、全面閉鎖
- 10/ 4 宮ノ前からやなぎテラスまでの一部解除
- 10/11 台風 19 号に備え全面閉鎖
- 11/16 宮ノ前からやなぎテラスまで一部解除
- 2020/ 1/10 宮ノ前から引橋まで解除(北の尾根は閉鎖)
- 3/ 5 全面解除
- 4/ 8 新型コロナウイルスによる緊急事態宣言を受け、全面閉鎖
- 6/ 9 全面解除

(横須賀三浦地区県政総合センター環境部みどり課に確認)



昨年 9 月から今年の 6 月にかけての 9 カ月のうち、通り抜けが出来たのは 1~4 月の 3 カ月、全面解除は 3~4 月の 1 カ月のみだった。

幸い 2 月 2 日の鳥の交流会は開催できたが、4/29 の交流会は中止せざるを得なかった。

我々の森ロスの気持ちはたかまるばかりだった。

6 月 9 日全面解除と聞いて、10 日さっそく三浦市在住のスタッフ二人で駆けつけた。ワクワクする期待と、反対にどうなっているだろうという不安の両方がかかえて入った。

ほっと息をのむような緑に包まれ、心配なんて吹き飛んだ。人間の事情に関係なく、草木はめっちゃ元気で、清浄無垢な美しさを湛えていた。ちょっと今までにない感動を覚えてしまう。

キツキのドラミング。私にはアオゲラかアカゲラかわからない。ホトトギスも鳴いた！

ハンゲショウの群落、半分白く。アシやガマがすんすん伸びて、シモツケの花、お久しぶり！オオシオカラトンボにアサヒナカワトンボ。オオスズメバチまで出てきて。テイカカズラの花の滝！あまい香も漂ってくる。

浜に出ると、大潮なのか干潟が大きく出ている。チゴガニのダンスもちゃんと見られた。

北の尾根から帰る。男坂の階段途中で見つけた蘭は、オオバノトンボソウだと教わった。

いつもの小網代、いつもの森。こうでなくっちゃ！

また仲間としばしばお邪魔するから、よろしくね！



記・写真 松原あかね



多摩川下流域の東側台地には、荏原台古墳群と多摩川台古墳群と呼ばれる数多くの古墳が散在する。

地形的に、西の川崎側は平地が広がっている。対して、東は国分寺崖線と呼ばれる台地が続いている。太古の昔から、多摩川が洪水氾濫した時には平地の広い西側へ流れ広がったものと思われる。古代の人達は、もし古墳を設置するならばより高い台地状の最上部へ建造するものと考えたのである。遥かに富士山、丹沢、箱根の山々を望む景勝地である。

代表的なものでは、環 8 通りに隣接する世田谷区玉川野毛公園に存在する、我が国最大級の帆立貝式古墳である野毛大塚古墳。築造は古墳時代中期、約 1600 年前（西暦 400 年）、高さ 11 メートル、幅 4 メートル、全長 82 メートル。出土したのは刀剣、銅鏡、勾玉、甲冑等の副葬品。古墳の平坦面には、埴輪、他に鳥、家、壺等土器が多数並べられ、多摩川の自然石によって覆われていたという。最初の発掘は明治 30 年（1897）。古墳の被葬者は出土した副葬品からみると、畿内大和河内の大王と政治的関係をもった人物で、南武蔵「現東京川崎横浜」を支配していた大首長であったと考えられる。



東急大井町線の等々力駅下車、西へ 10 分。周辺は住宅地化が進んでいるが、周辺には古墳、横穴等約 15 ケ所が今も保存されている。

多摩川岸に沿って南下、東急電鉄東横線の多摩川駅の南側。現在は多摩川を望む大田区多摩川台公園は、川岸の丘陵全体が数多くの大規模な古墳が南北に並んでいる。

古墳群の北端に位置する、都指定史跡の蓬萊山古墳「平成 8 年 3 月 18 日指定」前方後円墳。昭和 9 年、宅地造成のために惜しくも古墳の一部が掘削された。築造当時は前方後円墳であることが確認されている。墳丘長は 97.5 メートル、後円部高さ 11 メートル。築造時期は亀甲山古墳よりも古く、出土した埋葬品から 4 世紀前半に遡るものといわれ関東地方でも最古の一つと考えられる。埋葬者は多摩川流域で最初に現れた首長の墓と考えられる。

桜の時には多数の花見客で賑わう自由広場には管理事務所があり、隣接して古墳展示室が併設されている。公園の遊歩道に沿って 6 基の古墳群が直線的に並んでいる。

最大のものは南端にある国指定史跡の亀甲山古墳「昭和 3 年 2 月 7 日指定」。東京都内最大の前方後円墳である。墳丘長 110 メートル、高さ 11.75 メートル。残念ながら未だ発掘調査が行われていないので、出土遺物がなく正確な築造年代は不明といわれている。形式から見て、蓬萊山古墳より新しく 4 世紀後半に築造された首長墓とおもわれる。

日本国最大の古墳では、大阪府堺市の大山「だいせん」古墳 525 メートル、伝仁徳陵。東日本最大では、群馬県太田天神山古墳の 210 メートルである。飛鳥時代になると古墳は仏教寺院へと移り変わってゆく。

世界 3 大陵墓といえば大山古墳、中国西安の前 220 年建立、秦の始皇帝陵で高さ 76 メートル、周囲 6.2 キロ。エジプトのカイロにある前 2000 年建立、クフ王のピラミットで高さ 137 メートルである。

我が国を代表する超高級住宅街地である田園調布の南側、駅前から坂を下り徒歩 10 分、蓬萊山古墳に隣接する広大な蓬萊公園。古木や樹木多く茂り、今も武蔵野の面影を残す閑静な自然公園で池にはマガモ等の水鳥が遊んでいる。碑文があり「風光典雅ニシテ樹林湧水の美」とある。

現在、東急電鉄田園調布駅は地下に移り、地上には昔使用した古典的な田園調布駅舎が復元され保存されている。

## 随想 サロン小網代

随想 小網代てんてん

(40)

雲の地図

須田漢一

ある会合に出席するため京浜急行・三浦海岸駅で降りる。開催時間には、まだ余裕がある。ちょうど昼どきだ。プラットホームのベンチに座って、コンビニで買ったサンドイッチとコーヒ―で昼食にする。

むし暑い夏にしては、澄み切った青空が嬉しい。そのカンバスの中を、白い雲がゆっくり、と止まることなく確実な動きで、南から北へ向かっていく。大陸のような雲もあるけれど、小さな島といったものが多い。ポキヤブラリー(語彙)の乏しい私は、その形が何に似ているか、と子どものように思うだけで、哲学的で詩的な言葉など想い浮かばない。

まず、世界地図に似ているな、と思う。そして、陸地の形はどのように決まったのか、なんてことを思ってみる。あちこち切れているものはジグソーパズルのようだ、とも思ってみる。

そして地球から見える他の星星は、遠くから

見る限りでは、ほとんど球体なのに、地球上の陸地を地図で見ると、大小の差があり、形も高さもみんな違うし、島まで入れたら、さらに複雑な姿で描かれているのは、なぜか、そんな想像をしてみる。かつての歴史観のように、全てはカミが創り給うた、ですませれば、楽で学問なんていらぬ。もしも雲の形までカミが創った、というなら、カミは何てきまぐれで変てこな形を創造したのだろう。

ともかく陸地は、その複雑な形から、そこに住む国家(といつても人の集まり)間の紛争の種になる。人間は勝手なもので、今住んでいるところは、自分たちが信じているカミがつくったもの、と神話や伝説・伝承の類いをもちだして、広く公にして、所有権を主張している。しかし、それはその国の、言い換えれば勝手な考え方で、他の国には当然受け入れられない。それがおかしい方向にむかうと、やがて争いになる。そうした紛争の歴史は終ることなく今も続いている。人間のつくった(築いた、ともいつてよい)歴史・文化は何億年かの地球史から見ればゾウに對するアリよりも小さい。しかも陸地そのもの

が不変ではないのに、ヒトにはそれが見えていない。

雲は絶えず形を変えていく。大きかったり小さかったり、でこだったり、尾がきたり、ひれがついたり、それらはたちまち形を変え、消えていく。

そう、人の描いた地図上の陸地も、長い期間には変わっていく。四十六億年前に誕生したという地球から見れば、地殻そのものが不変ではないのだから、その中でいがいみあっているなんて、徒勞な努力を重ねているだけだ。

宇宙から見た地球は、ほぼ球体である。たいていの物質は角がとれ、丸くなっていく。人を含めた生き物も究極には角がなくなりまろくなっていくのではないだろうか。

— そんなことを思っていると、また雲が現れ、消えていった。その動きは人生と似たようなものかも知れない。会い、別れ、また会う。それぞれのシーンには違いがあるけれど、繰り返しのなかに生が積みあげられ、古びていく。去っていくものを追いかけても、追いつけない。

2012/8

## 小網代を詩う

小網代へ

中井 由実

私は杉並区に住んでいるから  
最初に新宿駅に出る  
総武線を使えば 山手線の乗り換えはすぐ  
池袋方面からの乗客で混んでいる  
やがて品川駅  
京急線に乗って三崎口駅まで一直線  
けれど  
横浜駅までたくさんの人が乗り降りる  
金沢文庫を過ぎた頃からだ  
身体力が抜けるのは

小網代に行く

あの緑の中に行く喜びは  
生きることへのチャレンジ  
私は小網代に行く

わくわく

中井 由実

味気ない車内アナウンスが告げる  
「ツギハ ヒキバシー」  
途端に 心が膝が足首が  
そわそわと動き出す  
小網代の森はすぐ  
もう もうすぐだから

マスクを外す

中井 由実

コロナ禍で街は息苦しい  
明日からの仕事が気持ちに重い  
うつむいて電車に乗る  
言い訳が必要だ 「せっかくの梅雨の晴れ間だし、」

たどり着いた小網代は明るい  
入り口で高らかにウグイスの声が響く  
立ちのぼる 伸び盛りの草と葉と花の芳しい香り  
それは洗礼  
もう 煩わしいこと全てがどうでも良くなっている  
マスクを取って上下左右を見回し  
みずみずしい命たちに挨拶する  
ああ、私 こんなに笑えるんだ

今、

中井由実

何年前だろう

小網代がなくなってしまうことを

恐れていたのは

見つけるたびに微笑みがこぼれた

小さな生き物たち

目を低くして、あるいは首を伸ばして探した

美しい花たち 若芽や種も

残すんだ、仲間たちと心決めて

通ってきたこの小さな大自然

人間の世界が危うくなっている今

森が遠のくことがある

鳥の写真や谷の動画を見て

心ふるわせるだけ

人間も必ず残るから

大丈夫 小網代はずっとここにある

森が待っていてくれる番

そう信じている



挿し絵 「おもいで 石切り場」 伸

## ■ スタッフ研修 光の丘水辺公園「ハンゲショウと変形菌」

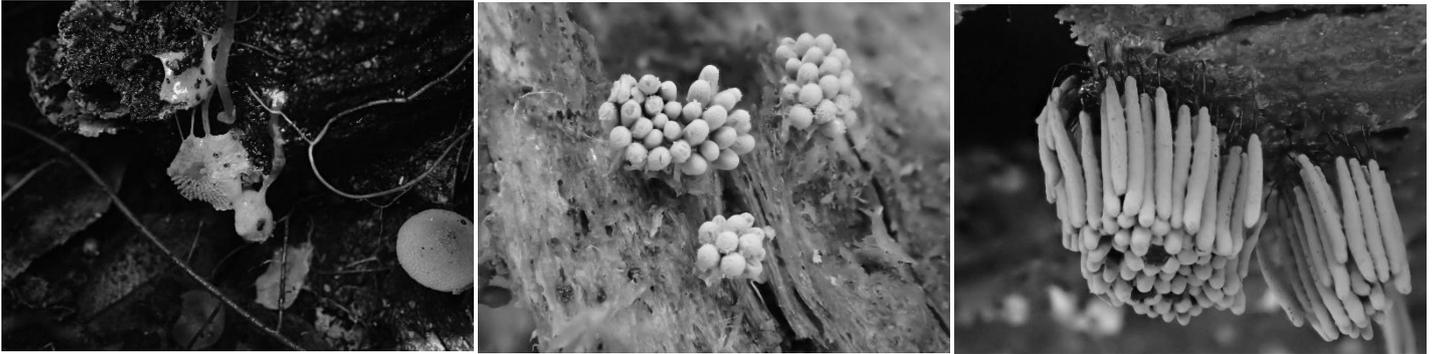
6月25日（木）参加者5名

ハンゲショウが見ごろを迎えていますよ。という情報をいただいたので、光の丘水辺公園へ出かけてきました。小網代のハンゲショウもきれいですけれど、水辺公園のはどんなかしら？ そんな期待にワクワクしながら、YRP野比駅に着きました。駅舎はまるでツバメの集合住宅。可愛いけど、頭上注意です。

Mさんの車に拾ってもらい、一路光の丘水辺公園へ。水辺公園の外周にもハンゲショウがいっぱい。とってもきれいです。小網代のより葉が大きいように見えるのは気のせいでしょうか？ 気のせいですね。

今の時期は、水辺公園でも変形菌が出ることが多いとのことで、変形菌のコレクションを拝見したり、カメラに納めたり。ちょっと探してみましようか？ 行きます！ 行きます！ と小躍りしながら変形菌探し、ハンゲショウはどこへ行ったやら.....ハテ。

変形菌探しに絶好の天気と言うには今一つ、どうやら明日あたりにニョキニョキ出てきそうな気配ですが、いくつか見つけることができました。久しぶりに見つけた変形菌たちに、参加者一同ニコニコです。



(写真は翌26日に再チャレンジした際のものです)



開放中の園奥は、白と緑に彩られて、上等なペルシャ絨毯のよう。圧倒的な量のハンゲショウ！ ハンゲショウ！ またハンゲショウ！ ワ〜ィ！ です。



倒れてしまった木を利用した、テーブルセット。

お弁当を食べたり、おしゃべりしたり、もちろん休憩場所としても。

思わず、長居してしまいそうな、楽しい空間ができていました。

光の丘水辺公園友の会会長の別府さんに、午後の時間を、めいっぱい案内していただきました。ありがとうございます。



## ■ スタッフ研修 地衣類いっぱいの谷

7月5日（日）参加者7名

「近くに地衣類いっぱいの谷がある」と昨年在地衣類交流会に参加した三浦市在住の会員さんから情報をいただき、さっそく案内していただきました。かくれ菖蒲園近くの谷は、時折り車が通るものの、ひっそりとした、観察にはもってこいの場所でした。片側の岩盤や擁壁には地衣類がびっしり。レプラゴケとジョウゴゴケモドキのような地衣類が多かったです。

小網代で見たジョウゴゴケモドキより随分と小さいので、種類が違うかとも思い、地衣類ネットワークの山本先生に尋ねてみました。地衣類も生育環境が悪いと、貧相になるそうです。

陽があまり差し込まないひんやりとした谷は、夏の暑い盛りに歩いても、別世界。小網代の森歩き前後のオプションコースとしておすすめですよ。

記・写真 浪本晴美



## ■ 小網代の森 NEWS

### ●●● スタッフの活動 ●●●

- 2020.05.27(水) 通信 No.21 印刷、DVD 発送(横須賀市西行政センター)
- 2020.06.14(日) スタッフ会議(ビデオ会議)
- 2020.06.24(水) 第22回交流会、ご案内ハガキ発送
- 2020.06.25(木) スタッフ研修 光の丘水辺公園「ハンゲショウと変形菌」
- 2020.07.05(日) スタッフ会議(横須賀市立 市民活動サポートセンター)  
スタッフ研修「地衣類いっぱいの谷」
- 2020.07.12(日) 第22回交流会 「何はなくとも森歩き」  
スタッフ会議(ベイシア・市民交流スペース)

### ●●● ご寄付ありがとうございます ●●●

安西章次様	石川登美子様	伊勢坊淳子様	伊藤和良様	江川公明様	蛭名喜代作様
大高義彦様	大塚 敏様	岡田尚子様	小田島一生様	柿島京子様	加瀬アンナ様
加藤紀子様	金木公子様	木内恭子様	倉内太輝様	倉内ちひろ様	塩入一弥様
柴内朱美様	嶋津 誠様	鈴木久夫様	鈴木慶子様	須田漢一様	祖父川精治様
高橋伸和様	高間玖爾美様	高間玲江様	俵 国芳様	土屋圭子様	浪本晴美様
浪本 梓様	西川次代様	野内 博様	橋 美千代様	クララ・バンバム様	
久水健史様	藤崎洋子様	藤野秀代様	松原あかね様	三本保子様	宮下孝一様
望月光子様	盛野成信様	盛野雅子様	山本述子様	頼 梨花様	(五十音順)

以上の皆さまからご寄付をいただきました。大切にに使わせていただきます。

## ●●● 第5回 こあじろの森くらぶ総会のお知らせ ●●●

2019年7月から2020年6月までの活動報告並びに次年度の活動計画を提案します。

第二部では、会報・カレンダー・DVDに写真をご提供下さっている、石塚敏久さんが小網代他各地で撮影された、生きものや自然の写真、アートな写真をご紹介します。

どうぞご参加いただき、くらぶのこれからのためにご指導下さいますようお願いいたします。

※ 新型コロナウイルス感染の状況により、会場の使用が出来なくなる可能性もあり、その場合は、議長とスタッフによるオンライン総会を行い、皆さまにご承認いただきます。総会の議案書を別添いたしますので、総会出席・欠席のご予定にかかわらず、委任状をご返送くださいますようお願いいたします。

日 時 2020年8月30日(日) 13:30~15:00

会 場 南下浦市民センター 2階 講堂 (三浦海岸駅徒歩1分)

一 部 議 事

二 部 写真ショー「新型コロナを吹き飛ばせ!小網代から Paris まで…」 石塚敏久さん  
14:00頃開始

※ 新型コロナウイルス感染の状況を勘案し、会場内ではマスクの着用をお願いいたします。

- 総会終了後、時間と天候が許せば一緒に、秋の気配が漂い始めた森を歩きたいと思います。とは言え、With コロナの夏ですから、マスク着用は必須。また密を避けるために日傘や折り畳み傘などのご用意をお勧めします。

年会費 1,000円 (7月~6月 入会金不要)

郵便振替 記号番号 00290-6-137203

加入者名 こあじろの森くらぶ

## ●●● 今後のイベント予定 ●●●

8月のアカテガニ遠足は中止いたします。

10月25日(日) 第23回交流会

12月5日(土) 第24回交流会 終了後希望者は縁の会に出席

2月7日(日) 第25回交流会「恒例 鳥いっぱい谷と海2021!」

3月~4月 遠足 ニリンソウ (光の丘水辺公園)

4月29日(木・祝) 第26回交流会、交流会終了後「加藤さんの写真とトークを楽しむ会」

6月 第27回交流会 ホテル (県指定の森開放期間に合わせて実施)

※ 新型コロナウイルスの感染状況により、中止・変更となる場合があることをご了承ください。

## こあじろの森くらぶ通信 No.22

2020年7月26日発行

こあじろの森くらぶ Koajiro Woods Club

所在地: 〒238-0101 神奈川県三浦市南下浦町上宮田 1528-75

連絡先: info@mori-club.com (高橋) ☎046-889-0067 (仲澤)

URL : http://www.mori-club.com

年会費: 1000円 (7月~6月 入会金不要)

郵便振替: 記号番号 00290-6-137203

加入者名 こあじろの森くらぶ